



磐梯山（猪苗代町・磐梯町・北塩原村）

猪苗代湖の北にそびえる活火山で、標高は1,816.29m。会津富士、会津磐梯山とも呼ばれる日本百名山の1つです。

磐梯山の麓は南が表磐梯、北が裏磐梯と呼ばれていますが、表磐梯が整った山体である一方で、裏磐梯は山体崩壊の荒々しい跡を残しており対照的な姿を見せてくれます。また、独立峰なので山頂からの眺めはこの上なく、那須連峰・尾瀬の燧ヶ岳・会津駒ヶ岳・飯豊連峰・出羽三山など、みちのく路の巨峰が雲海に突き出したパノラマは圧巻です。



株式会社アサカ理研



証券コード：5724

株主の皆様へ

第44期第2四半期報告書

平成22年10月1日から平成23年3月31日まで

個人投資家の皆様へ

詳しくはホームページを
ご覧下さい。

<http://www.asaka.co.jp>



■ トップインタビュー

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げますとともに、日頃より当社の活動に多大なるご支援、ご高配をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

また、平成23年3月11日の東日本大震災におきまして被災されました皆様に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、犠牲になられた方々でご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。ならびに、被災地におかれましては、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

Q1. 平成23年9月期第2四半期の業績についてお聞かせください。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、緩やかな景気回復の過程にあるものの、政府による経済対策効果の反動や、円高の進行などによって、改善の動きに一服感が見られ、先行きの不透明感が拭えない状況が続いておりました。加えて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、景気の先行きはさらに不透明になっております。

当社グループの経営成績に影響を及ぼす電子部品・デバイス工業分野の生産は、高機能携帯情報端末の需要増加などを背景に、堅調に推移しておりました。しかし、東日本大震災によって、東北地方を中心とした被災地域にある工場の生産が低下したほか、業界全体に様々な影響が及びました。一方、主力製品である貴金属及び銅の価格は、為替が円高で推移する中でも、比較的高い水準で推移しました。

このような環境のもと、当社グループでは、年度目標である、新たな市場の開拓、新規事業の拡大、生産効率の改善、社内諸制度の再構築による経営管理体制の強化に取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。また、東日本大震災によって、本社及び工場の建屋や一部の設備に損傷が発生し、交通規制や燃料不足による物流悪化の影響も受けましたが、全力を挙げて復旧作業に取り組んだ結果、物流事

情の改善とともに、早期の営業再開を果たすことができました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、6,052百万円（前年同四半期比10.0%増）となりました。営業利益、経常利益はそれぞれ、257百万円（同83.4%増）、243百万円（同110.0%増）となりました。また、特別損失として、東日本大震災に関連する損失65百万円及び減損損失34百万円等を計上し、四半期純利益は、20百万円（同64.9%減）となりました。

Q2. 今後の見通しについてどのようなお考えでしょうか。

この度の東日本大震災の発生により、景気の先行きは不透明感を増しており、サプライチェーンの混乱の長期化や



代表取締役社長

山田 慶太

夏場にかけて深刻化するとみられる電力問題等で、電子部品・デバイス工業分野の生産活動が停滞するリスクが存在しています。徐々に回復していくものと予想しておりますが、震災前の水準に戻るには今しばらく時間を要すると考えられます。

事業別の事業環境についてですが、貴金属事業では、貴金属価格の高騰や、リサイクル需要の高まりから、価格競争が激化しておりますが、顧客満足度向上を含めた生産効率の改善に取り組むとともに、新たな市場開拓を目指して、国内のみならず海外も含めた積極的な営業活動による受注推進を継続しています。環境事業においては、新しい収益基盤となる事業の構築を目指し、積極的に新しい事業展開への取り組みを行ってまいります。また、同時に、経営管

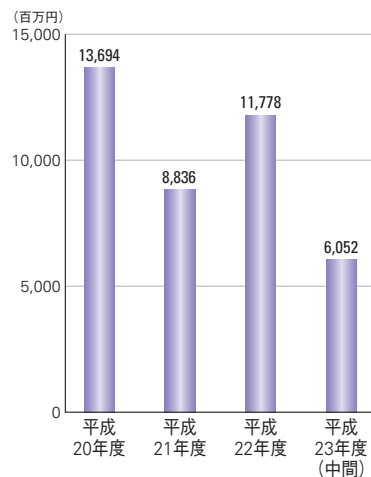
理体制の強化や全社的なコストダウンへの取り組みを継続してまいります。

Q3. 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

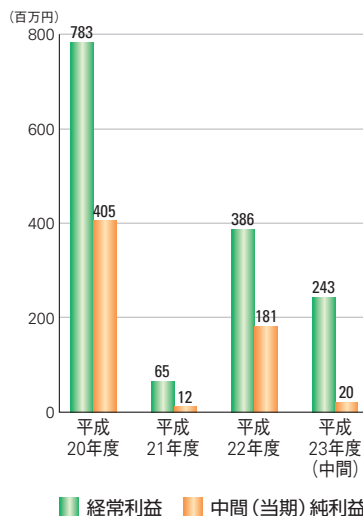
この度の東日本大震災においては、本社及び工場の建屋や一部の設備に損傷が見られたものの、社内の総力を結集して復旧作業に取り組んだ結果、早期に損傷した設備の復旧及び代替手段の確保を実現し、主要製品の生産体制を整えることができました。

未曾有の厳しい環境の中ではありますが、引続き従業員一丸となって企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

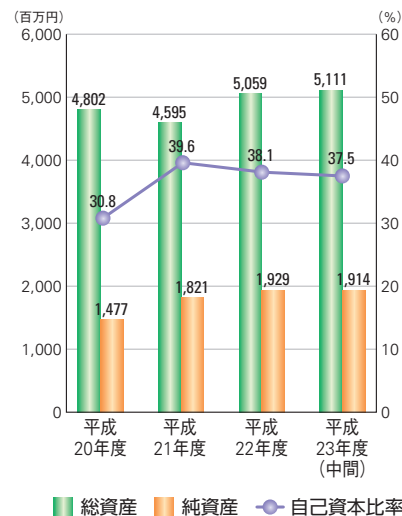
売上高



経常利益、 中間(当期)純利益



総資産、純資産、 自己資本比率



■ 当第2四半期 連結累計期間の概況

■ 貴金属事業

当事業の主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野の生産が総じて堅調に推移したことから、当社の受注も堅調に推移しました。また、主力製品である金をはじめとする貴金属の販売価格は、高値で推移いたしました。東日本大震災の影響によって、3月度の生産が落ち込んだため、貴金属の回収量は前年同期実績並みにとどまったものの、平均販売単価が前年同期実績を上回り、売上高は5,483百万円となりました。経常利益は、売上高の増加等によって、358百万円となりました。

■ 環境事業

当事業の主要なお客様が属する電子回路基板業界においては、リーマンショック後の大幅な生産減少から、一定の回復を見せているものの、依然足りずは重く、さらに、東日本大震災の影響を受け、当社の電子回路基板向けエッチング液や、銅ベレットの販売数量は、前年同期実績を下回りました。銅ベレットの販売価格については、前年同期実績を上回ったものの、上述のエッチング液や銅ベレットの販売数量減少と、前連結会計年度で終了したクロムエッチング液再生事業の売上減少を補いきれず、売上高は、528百万円となりました。経常利益は、原価低減の効果や銅価格が上昇したこと等によって、138百万円となりました。

■ その他の事業

システム受託開発事業においては、特注システムを中心に、売上高が前年同期実績を上回りました。一方、運輸事業においては、燃料価格の高止まりなど厳しい事業環境が続いております。この結果、その他の事業全体としての売上高は、118百万円となり、経常損失は、0百万円となりました。

■ 第2四半期連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当第2四半期末 (平成23年3月31日)	前期末 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産	3,146	3,049
固定資産	1,964	2,009
有形固定資産	1,766	1,807
無形固定資産	29	29
投資その他の資産	168	171
資産合計	5,111	5,059
負債の部		
流動負債	2,292	2,332
固定負債	904	797
負債合計	3,196	3,130
純資産の部		
株主資本	1,876	1,893
資本金	504	504
資本剰余金	339	339
利益剰余金	1,079	1,095
自己株式	△46	△46
評価・換算差額等	38	35
純資産合計	1,914	1,929
負債純資産合計	5,111	5,059

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当第2四半期 (平成22年10月1日～ 平成23年3月31日)	前第2四半期 (平成21年10月1日～ 平成22年3月31日)
売上高	6,052	5,500
売上原価	5,218	4,761
売上総利益	833	738
販売費及び一般管理費	576	598
営業利益	257	140
営業外収益	9	13
営業外費用	23	37
経常利益	243	116
特別利益	—	0
特別損失	144	1
税金等調整前四半期純利益	99	115
法人税、住民税及び事業税	51	92
法人税等調整額	26	△36
少数株主損益調整前四半期純利益	20	—
四半期純利益	20	59

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

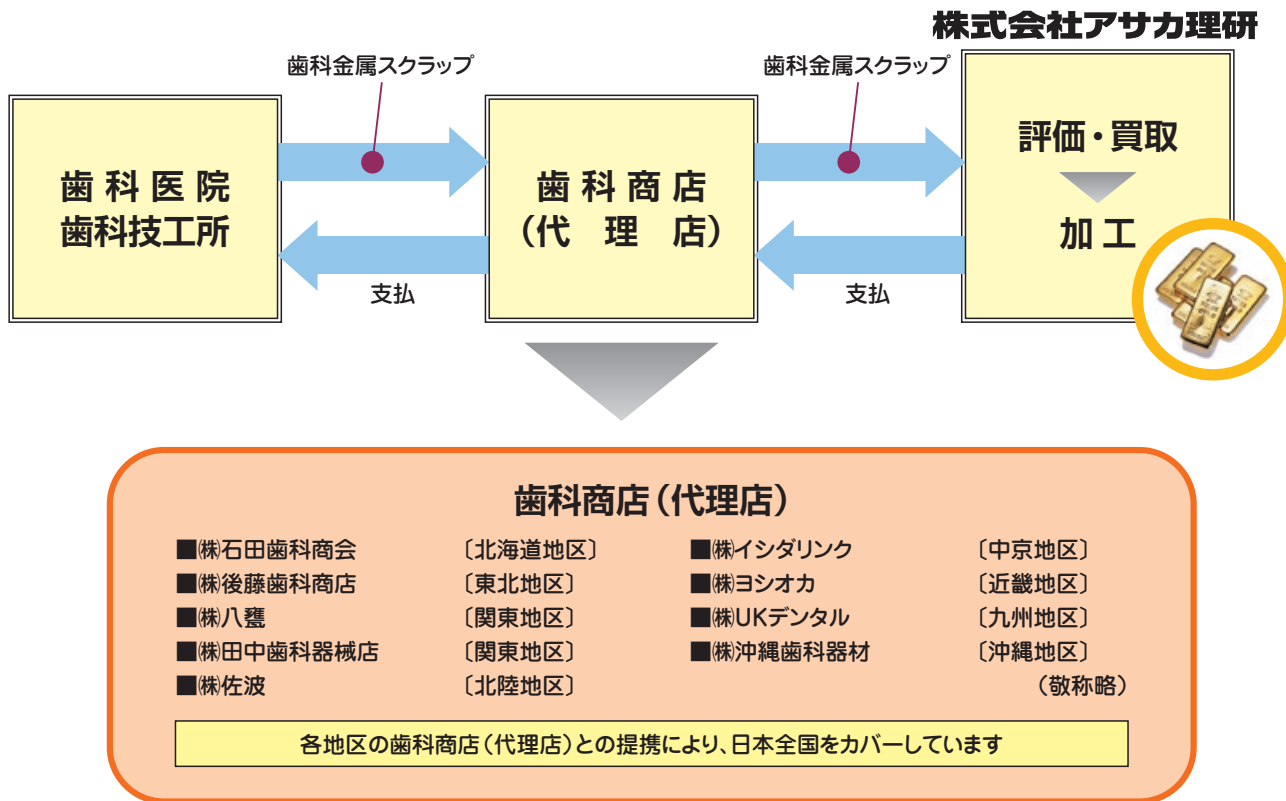
（単位：百万円）

	当第2四半期 (平成22年10月1日～ 平成23年3月31日)	前第2四半期 (平成21年10月1日～ 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	390	500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△74	△106
財務活動によるキャッシュ・フロー	50	△198
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	366	195
現金及び現金同等物の期首残高	814	570
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,181	765

■ 特集 アサカ理研の新たなビジネスモデル(歯科材料からの貴金属回収)

当社では、製造工程から発生する不良品や基板屑等からの貴金属回収をメインとした事業を展開しておりますが、そうした既存事業のコア技術を活かせる新分野の創出にも力強く取り組んできました。そのうちの1つが、歯科金属スクラップからの貴金属回収という新たなビジネスモデルです。

当事業では、業務提携する全国の歯科商店（代理店）が集荷した歯科金属スクラップから金・銀・パラジウム等の貴金属をこれまで培ってきた独自の技術により回収するとともに評価・買取まで行っています。事業開始直後より、回収率・透明性・評価率の高さが大きな反響を呼び、提携先のお客様はもちろんのこと、歯科医師の方々からも高い信頼と評価を得ています。



■会社概要

商 号	株式会社アサカ理研
本 社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
資本金	504,295,600円
事業内容	
①貴金属事業	金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精錬処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売
②環境事業	塩化第二鉄廃液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、水処理事業、光触媒事業
③その他の事業	自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売、工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

■役 員

代表取締役社長	山田 慶太
取締役	吉田 隆之
取締役兼執行役員	志村 高史
取締役兼執行役員	佐久間幸雄
取締役兼執行役員	鈴木 忍
取締役	桜井 正孝
取締役	熊谷 巧
取締役	三崎 秀央
常勤監査役	大谷 勝男
監査役	遠藤 政勝
監査役	森 勝房

(注) 監査役大谷勝男氏及び遠藤政勝氏の両名は、社外監査役であります。

■株式の状況

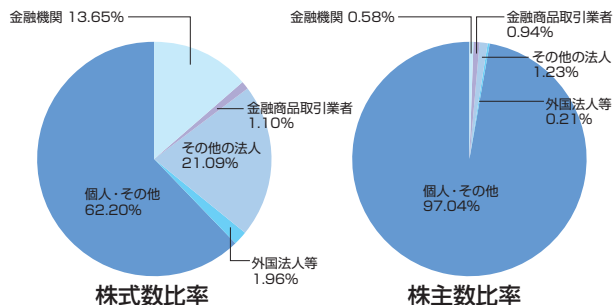
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式数84,574株を含む)
株主数	1,385名

■大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
山田慶太	717	28.82
有限会社モラル・コーポレーション	341	13.71
野村ホールディングス株式会社	100	4.02
株式会社常陽銀行	90	3.62
株式会社東邦銀行	81	3.26
日本生命保険相互会社	72	2.91
山田盛久	51	2.05
第一生命保険株式会社	50	2.01
東京中小企業投資育成株式会社	50	2.01
ザ バンク オブ ニューヨーク トリー ティー ジャステック アカウント	46	1.87

(注) 当社は自己株式(84,574株)を保有しておりますが、議決権がないため上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■所有者別分布状況



上記比率は、当社保有の自己株式(84,574株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
期末配当金受領株主確定日	9月30日
中間配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL：0120-49-7009（通話料無料）
上場証券取引所	大阪証券取引所・JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

1. 株券電子化によるご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せ下さい。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行為口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意下さい。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

一足踏み入れるほどに魅了される大自然「尾瀬国立公園」



湿原を渡る風や可憐な花々が心を癒してくれます。自然の美しさ感動をおぼえる、そんな景色が尾瀬には残っています。ここ尾瀬国立公園は、平成19年8月30日に会津駒ヶ岳と帝釈山・田代山などを編入し、新設された29番目の国立公園です。尾瀬は日本有数の高層湿原で、四季を通じた雄大な自然は人々の心を癒し、活力を与えてくれます。その広大な地域の中央に燧ヶ岳がそびえ、その南側に尾瀬沼と大江湿原が、西側には東西6キロ南北2キロの広大な尾瀬ヶ原が広がり至仏山へと続きます。西から北にかけては尾瀬の水を全て集めて落ちる三条の滝、横田代、上田代等の田代群が続き御池に達します。

暮れ行く自然と凛とした朝の雲団気を感じつつ、尾瀬を堪能してみてもいいでしょうか。

尾瀬檜枝岐温泉観光協会

電話：0241-75-2432 FAX：0241-75-2336

<http://www.oze-info.jp/>

福島の旅が丸わかり!!

福島の旅 で検索 <http://www.tif.ne.jp>

うつくしま観光プロモーション推進機構（財団法人福島県観光物産交流協会 内）

福島市三河南町1番20号コラッセふくしま7階 TEL：024-525-4024